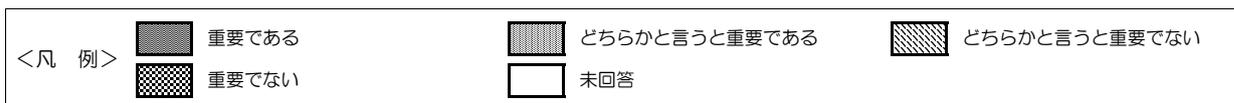
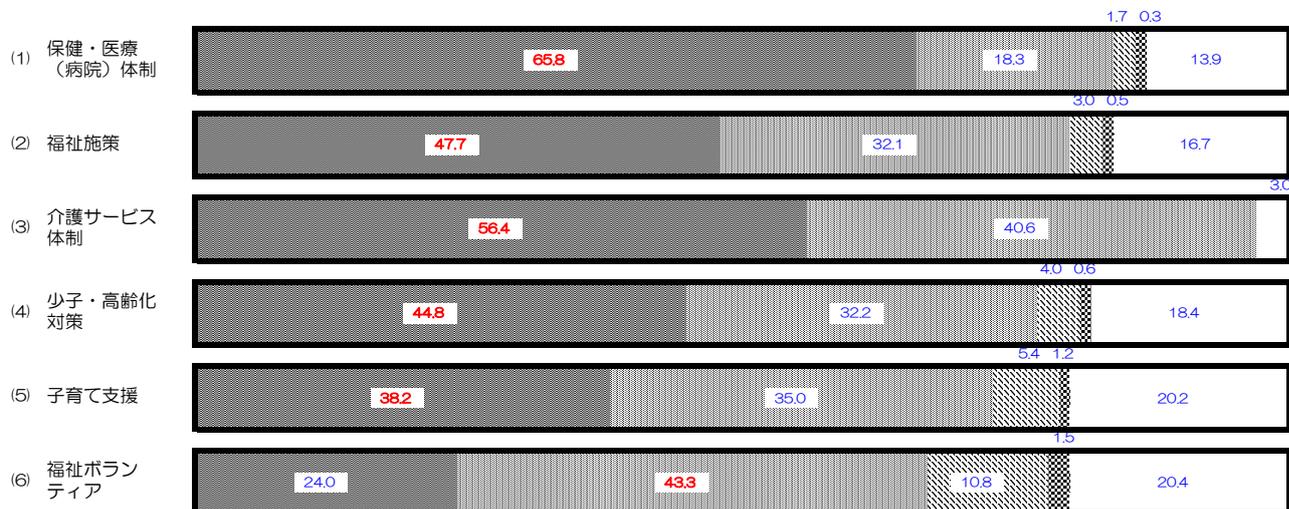


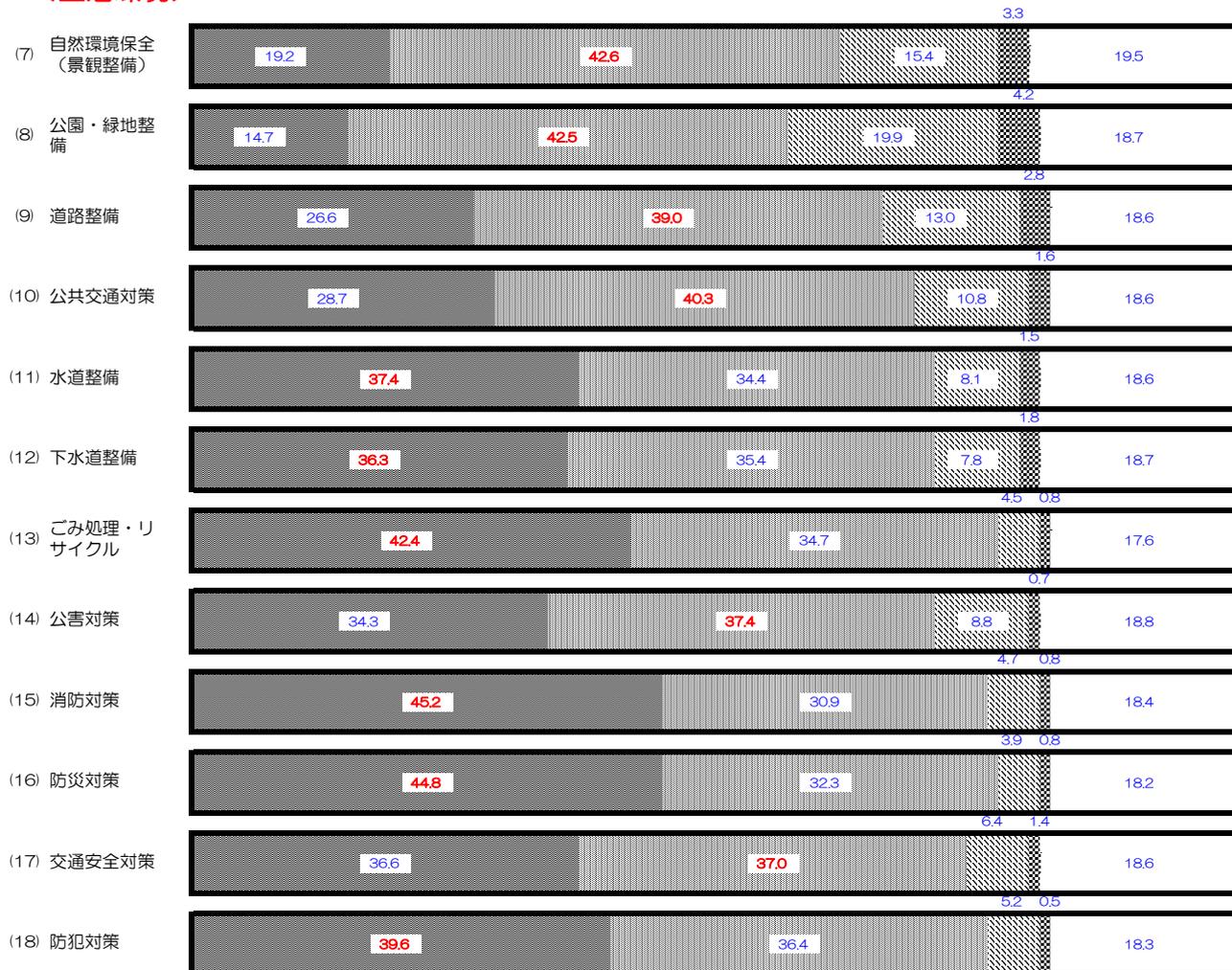
第4章 各分野の重要度について



<保健・医療・福祉>

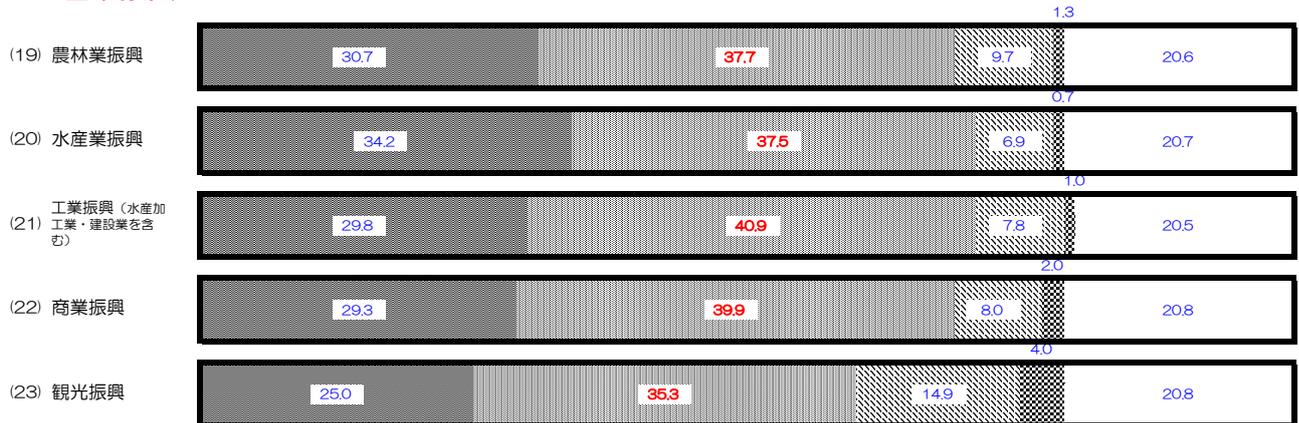


<生活環境>

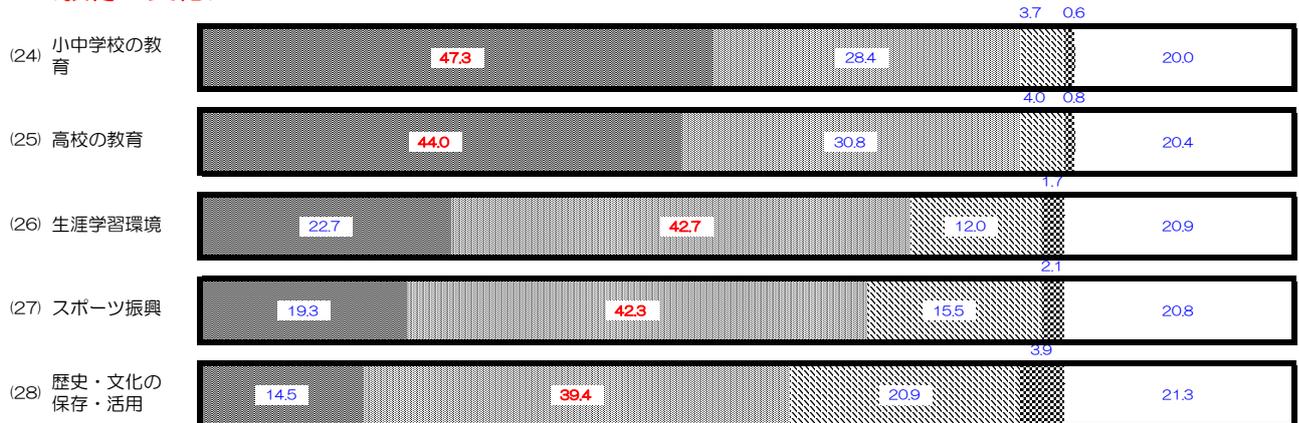


(単位：%)

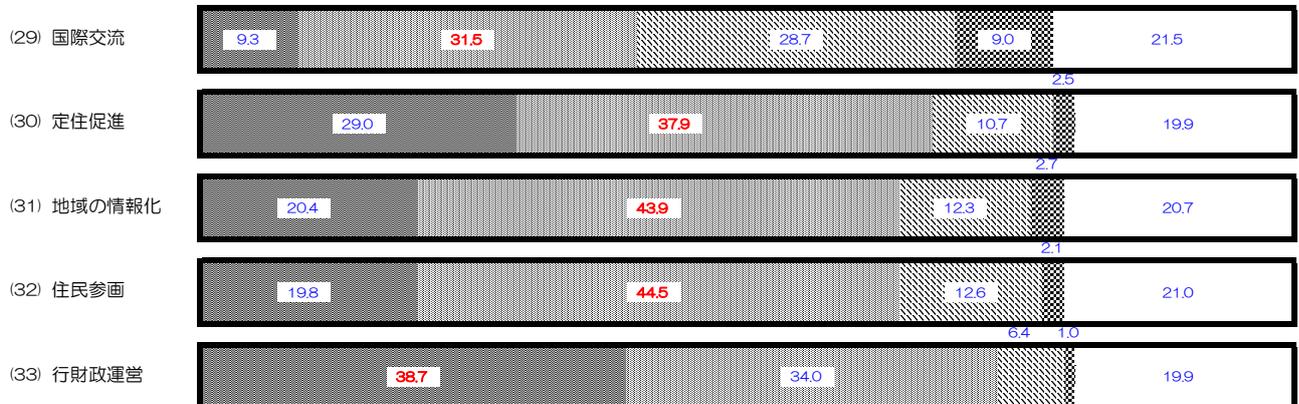
<産業振興>



<教育・文化>



<行財政・まちづくり>



※回答数A=1,264、ただし「介護サービス体制」については回答数101である。

(単位：%)

重要度が高い項目は、第1位「保健・医療（病院）体制」（84.1%）、第2位「福祉施策」（79.8%）、第3位「ごみ処理・リサイクル」及び「防災体制」（77.1%）、第5位「少子・高齢化対策」（77.0%）の順で、重要でない項目では、第1位「国際交流」（37.7%）、第2位「歴史・文化の保存・活用」（24.8%）、第3位「公園・緑地整備」（24.1%）、第4位「観光振興」（18.9%）、第5位「自然環境保全（景観整備）」（18.7%）の順となっている。区分別集計を見ても、重要度である項目の第1位は、全区分で「保健・医療（病院）体制」、重要でない項目の第1位は、「国際交流」（15区分）と「公園・緑地整備」（2区分）となっている。

男女別では、重要である項目の上位2項目は全体集計の結果と同じであるが、第3位は男性が「ごみ処理・リサイクル」、女性が「少子・高齢化対策」となっている。年齢別では、重要である項目の第1位は全区分で「保健・医療（病院）体制」であるが、15～29歳では第2位が「防犯対策」、第3位が「小中学校の教育」と「高校の教育」、30～70歳以上（3区分）の第2位は「福祉施策」であるが、第3位は30～49歳が「少子・高齢化対策」、50～69歳が「防災対策」、70歳以上が「ごみ処理・リサイクル」と年代によって差異が見られる。逆に重要でない項目の第1位は全年齢区分で「国際交流」であるが、2・3位は「歴史・文化の保存活用、公園・緑地整備」以外では、15歳～29歳で「農林業振興」と「スポーツ振興」、70歳以上で「自然環境保全（景観整備）」がそれぞれ第3位となっている。職業別では、重要である項目で「水産業振興」が水産業の第4位、また「工業振興」が製造・建設業の同じく第4位と上位に入り、「小中学校の教育」が4区分で2～5位以内に入っている。また居住地別では、宇津・秋里・豊野・住吉・富丘地区で「小中学校の教育」が重要である項目の第3位、「スポーツ振興」が重要でない項目の第2位（同率）となっている。